様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 10 日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５９２５７８

研究課題名（和文）　認知症ケアのアウトカムを高めるケアの質改善システムの構築

研究課題名（英文）　construction of dementia care outcomes based quality improvement systems

研究代表者
内田　陽子（UCHIDA YOKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・准教授
研究者番号：30375539

研究成果の概要（和文）：研究成果は、小規模多機能型施設、グループホーム、老人保健施設、病院においてケアの質改善の取り組みを行い、認知症高齢者の状態改善をもたらすアクションプランのシステムを普及したことである。

研究成果の概要（英文）：The outcomes of this study was to spread the systems of Outcome and Assessment Scale for Dementia Care and to identify action plans for improving outcomes in persons with dementia in small scale facilities, group homes, nursing homes and hospitals with quality improvement activities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：高齢者看護
科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学
キーワード：認知症ケア、アウトカム、質改善、高齢者

１．研究開始当初の背景

ケアの質評価は構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）、成果・結果（アウトカム）の３視点で行うことが重要である。しかし、わが国では構造と過程の視点のみの評価で終わっているのが現状である。アメリカでは 1980 年台までは在宅ケアの質の評価は構造と過程においていたが、1990 年ごろより、アウトカム評価に焦点を移行してきた。つまり、ケアした結果、患者や利用者の状態は改善したのか、悪化したのか、患者は満足しているのか、不満なのか、ケアの結果を評価することが重要と考えた。その結果、アウトカム評価方法のツールとして OASIS（The Outcomes Assessment Information Set）が開発された。これは対象の２時点の状態変化をアセスメントするツールである。代表研究者らは

OASIS をもとに日本版の在宅ケアアウトカム評価方法を開発し著書としてまとめ、わが国の対象に使用しその妥当性を検証した。

わが国でも急速に増加している認知症者に対するケアの評価はいまだなお長谷川式簡易知能評価スケールや Mini－Mental State Examination（MMSE）等が使用されている。しかし、この方法は知能面での評価であり、ケアそのものを評価するには問題がある。英国では開発した Dementia Care Mapping（DCM）方法があるが、訓練された特別な観察者が評価するものである。カナダでは高齢者用多元観察尺度（Multidimensional Observation Scale for Elderly Subject）が開発されている。しかし、わが国での実用性は低い。認知症ケアの評価は、認知症者の人生観、その国の文化、価値観が影響するものと考える。

認知症に対しては介護保険当初からアセスメント法についての問題が指摘されていた。これは既存のツールでは認知症の特有のニーズや課題が明確になりにくいというものである。2005 年、高齢者痴呆介護研究・研修センターが中心となって認知症者専門のアセスメント・ケアプラン表が開発されたばかりである。今後は、アセスメントと関連するアウトカム表の開発が急務となるであろう。さらに、アウトカム評価だけでなく、アウトカムを高めるケア介入の指標もシステム化していく必要がある。

わが国の認知症ケアのアウトカム評価方法とアウトカムを高めるケアシステムの普及ができれば、認知症ケアの質向上が得られると考えた。

２．研究の目的

認知症ケアのアウトカムを高めるケアの質改善システムの構築を行うことである。

３．研究の方法

１）対象

認知症ケアサービスを提供する機関（小規模多機能型施設、グループホーム、老人保健施設、病院等）を利用する認知症高齢者及びケアを行う職員や介護者とした。

２）認知症ケアのアウトカム評価票の使用とアクションプラン実施と評価方法の概要

認知症高齢者に対して評価票によるアセスメントを行った後、アウトカムを高めるアクションプランを職員と研究者が協働で立案する。その後、プランを実施し、評価票にて評価を行う。

３）アウトカムの評価方法

アウトカム評価票は、認知症症状・精神的安定に関する３項目、生活・セルフケア行動８項目、その人らしい生き方 6 項目、介護者 3 項目、合計 20 項目で構成される。

「アウトカムは２時点あるいはそれ以上の時点の間の健康状態の変化である」と定義したことから２時点の変化を捉えられるように評価の欄を1回目の月日､2回目の月日、判定の 3 つの欄を設けた。1 回目の月日の欄はその時点の利用者を含む対象の状態にあった番号をケア提供者が記入することとした。OASIS（The Outcomes Assessment Information Set）では、各アウトカム領域に対して利用者の状態が順序尺度の回答方式となっている。本評価票でも、アセスメント番号が０は正常、数字が高くなるにつれて状態は悪くなる。順序尺度は認知症の特性を考慮した内容となっている。

４）アウトカムの判定方法

判定は最高値持続、改善、維持、悪化、最低値持続の5段階で判定する。２時点の回答番号を比較して、1回目の番号から2回目の番号を引いて、マイナスの場合「悪化」、プラスの場合、「改善」と判定する。数字が変わらない場合は「維持」とする。「最高値持続」は調査票の解答が1回目、2回目共に｢0｣であった場合で、一番良い状態が続いたことを示す。最低値持続は調査票の回答が1回目、2回目とも一番多い数字に該当した場合で、最低の状態が持続したことを示す。OASIS（The Outcomes Assessment Information Set）で

は「安定（維持）」と「改善」しか算出されないが、島内らの日本版在宅ケアアウトカムと同様に、本研究では、「悪化」、「維持」、「改善」と評価することとする。

５）アウトカムを高めるケア方法のチェック

認知症ケア専門士を交えた検討会議において、ケアのアプローチ方法(指針)を示すとわかりやすいとの意見が出たため、アウトカムを高めるケア方法をそれぞれの項目について示し、チェックする方法を用いることとする。

６）アウトカムに影響する利用者の背景条件

氏名、性別、年齢、主疾患、既往歴、麻痺の有無と程度（部分、程度）、高次脳機能障害の有無と症状（失語、失認、失行、半側空間無視）、家族構成、キーパーソン、主介護者、生活暦・生活背景、寝たきり度、厚生労働省の認知度、要介護認定度、サービス受給期間、他のサービス種類と回数、ここに来る前の状態とした。

７）アクションプランの立案・実施

アウトカムを高めるために、施設全体もしくは個人別にアクションプランを立案した。プランには多職種メンバーを構成員とし、ターゲットアウトカムを定め、実施しやすいプランを５点前後立案した。立案したプランはすぐに実行され、再びアウトカム評価票にて評価を行った。

４．研究成果

本システムにより、認知症高齢者の状態改善が得られた。また、職員がケアを工夫するようになった。本システムは認知症ケアサービスを提供する機関（小規模多機能型施設、グループホーム、老人保健施設、病院等）での効果が得られ、わが国に普及されるようになった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

①内田陽子、井上謙一、古郡理重、小林三千代、永井里恵子、井上京子、青木雅美、広田美知子、矢島百合子、中島紀子、上山真美、認知章高齢者の状態改善をもたらしたアクションプランの特徴－グループホーム・小規模多機能型居宅介護・デイサービスでの取り組み－、群馬保健学紀要、査読有、33. 2013. pp１-7.

②長竹沙耶子、内田陽子、看護師からみた認知章症患者の排尿における問題点とアウトカムを高めるケア、日本認知症ケア学会誌、第 11 巻第４号、査読有,2013,pp788-795.

③内田陽子、中重度の認知症の方への生活機能を高めるケア - 第３回アウトカム評価に基づくケアの質改善法、認知症ケア最前線、査読無、Vol.34,2012.pp138-143.

④内田陽子、檜垣知里、滝原典子、加藤綾子、中重度の認知症の方への生活機能を高めるケア - 第 1 回入浴編－、認知症ケア最前線、査読無、Vol.32,2012.pp106-111.

⑤Yoko Uchida,Development and Validation of the Outcomes and Assessment Scale」 for Dementia Care,THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL ,Vol.62.No.1, 査 読 有 ,2012. pp.23-29.

〔学会発表〕（計６件）

①Yoko Uchida, Kenichi Inoue, Ayami Sato Rie Hurugouri, Michiyo Kogbayashi, Rieko Nagai, Kyoko Inoue, Masami Aoki, Michiko Hirota, Yuriko Yajima , Manami Kamiyama,Effective Action Plan Systems for Improving Outcomes in Older Persons with Dementia,The 20th IAGG world congress of gerontology and geriatrics,2013.6.24.Seoul(KOREA).(掲載決定)

②Ayami Sato, Yoko Uchia, Kenichi Inou,Rie Outcomes Evaluation Systems for Dementia Care -Outcome Change After One Year-, ,the 20th IAGG world congress of gerontology and geriatrics,2013.6.24.Seoul(KOREA).（掲載決定）

③中島成己、内田陽子、安藤亮、川久保悦子、井上京子、井上菜々子、太田昌克、笠原静江、小林実知子、設楽郁子、諸田眞澄、認知症高齢者に対する歌・書道・絵画療法の複合的アクティビティケアの実践と評価その１－グループホームでのアウトカムを高めるケア－、日本認知症ケア学会会誌　第 13 回日本認知症ケア学会大会、2012.5.20、アクトシティ浜松（静岡）.

④冨樫未妃、内田陽子、加藤綾子、滝原典子、木村聡、中根亮一、吹上はるみ、大河原千恵子、終末期にある認知症高齢者の生きる力を受け止めるケア、第 13 回日本認知症ケア学会大会、2012.5.20、アクトシティ浜松（静岡）.

⑤内田陽子、矢島百合子、日高清子、永井里恵子、中島紀子、古郡理重、井上謙一、認知症高齢者・職員を救うアクションプランの実践とアウトカム評価 - 小規模多機能における困難事例に対するケア - 2012.5.20. アクトシティ浜松（静岡）.

⑥長竹沙耶子、内田陽子、看護師からみた認知章症患者の排尿における問題点とアウトカムを高めるケア、第 13 回日本認知症ケア学会大会、2012.5.19、アクトシティ浜松（静岡）.

〔図書〕（計　2件）
①内田陽子、看護アセスメント力鍛え方＆教え方、日総研出版、2013.全192頁
②内田陽子、自分たちのケアの質がわかる認知症ケアのアウトカム評価方法と質改善の手引書、第３版、松本印刷、2012.全32頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
①「認知症ケア最前線」のホームページからダウンロード可能 http//gurukea.com

６．研究組織
(1)研究代表者
内田　陽子（UCHIDA YOKO）
群馬大学・大学院保健学研究科・准教授
研究者番号：30375539

(2)研究分担者
上山　真美（KAMIYAMA MANAMI）
群馬大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号：90451723

(3)連携研究者
なし（なし　　）
研究者番号：なし